

# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	26 / 2009 / 42-43
タイトル	「しらかばビオトープ」に発生したヒオドシチョウ
著者名	五十嵐正俊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

### 「しらかばビオトープ」に発生したヒオドシチョウ

「しらかばビオトープ」は造成後8年目を迎えて自然に生えた樹木や植栽した樹木も生長してますます雰囲気の良い場所になっている。生物多様性の面から見ても他の平面的なビオトープに比較すれば非常に変化に富んだビオトープになりつつある。したがって、陸上、水上、水中ともに生物相の遷移が興味深く観察できる。

最近では池の中よりも陸上の樹木の生長が注目され、それに伴って食植者も変わっていくようである。今年になって気が付いたのは造成時の元植生のまま残されたドーナツ池のバッコヤナギに発生したヒオドシチョウの幼虫である。発見後、2回の脱皮が観察され、5月30日終齢に達したものと見なされる。天敵類の寄生によって幼虫の集団が消滅する可能性もあるので群れが二分したのを機会にその中の1群を保護して飼育した。画像は発見時から数回にわたって撮影したヒオドシチョウ幼虫、蛹、羽化の記録である。

「しらかばビオトープ」から室内に持ち込んだ幼虫は6頭。6月6日から7日までに全部が蛹化。6月16日に羽化が始まった。写真5～8は、6月18日に撮影されたヒオドシチョウの羽化の様子である。そして6月18日午後までにすべての個体が羽化した。懸念されたのは寄生率だったが、今回持ち込んだものはゼロであった。

なお、室内飼育ということから終齢幼虫・蛹期間の所要日数には相当の短縮効果があったものと考えられる。

(3代 五十嵐正俊)



[写真1] 卵塊の殻



[写真2] 幼虫の群れ(2009年5月25日)



[写真3] 終齢幼虫(5齢、2009年6月1日)



[写真4] 蛹(2009年6月5日)

羽化の様子(2009年6月18日)



[写真5] 07:44頃



[写真6] 07:46頃



[写真7] 07:47頃



[写真8] 07:49頃